

京都府の地形地質

(自然環境保全のための基礎資料)

昭和49年3月

京都府公害対策室

この「京都府の地形、地質」は自然環境保全のための
基礎資料の一つとして、府の委託に基づき、地質・地形・
自然環境保全研究会（代表者 志岐常正）が調査した結
果を印刷したものである。

目 次

ま え が き	1
地形、地質、自然現象調査表	5
用語解説	51
地形、地質、自然現象位置図	56

ま え が き

自然保護の重要性は、最近ようやく多くの人びとの間に認識されるに至った。しかし、一方ではこれが叫ばれながら、他方では、今も相も変わらず、大規模な自然破壊、環境破壊が進められている。

文化財保護問題にもみられることであるが、自然保護に名を借りて保護すべき事物や場所の調査や指定を行い、実は、その指定以外の場所を根こそぎ「開発」、破壊する手段とする例も少なくはない。今回調査を行うにあたり、最も気がかりであったのは、正にこの点であったが、結局は、京都府と京都府民の力とを信じて、調査・報告にあたることにした。この判断が裏切られることのないよう、心から願うものである。

自然を何故保護しなければならないかについては、今更ここに多くを述べる必要はないと思う。しかし、今回の調査にあたり、どのような観点から、表に示したような事項、事物や場所（以下、簡単に「事物」という。）を選び出したかを明らかにしておく意味で、一言述べさせていただきたい。

人間をとりまく自然の保存という問題について、一般に、まず考えられるのは、風致の保存ということであろう。風致の保存、あるいは景観の保存ということは、ともすれば思われがちなような、呑気な話でもなく、ぜいたくなものでもない。今日のような社会状況の下では、むしろ、人間の人間らしい心と生活を守る上で、極めて重要なものであると言える。今回の調査でとりあげられた事物には、この観点から選ばれたものが多いのは当然である。

自然保護を言う際に考えられる問題の、他の一つは、将来の学問的研究を保証するための、いわば現物保存の必要性である。破壊された自然は、決して、完全に旧に戻ることはない。人間の認識というものが完全でない以上、科学の発展の段階に応じて、同一のものを再検討・再調査する必要が必ず起ってくるが、破壊され、なくなってしまったものを調べることは不可能であり、このような事態に立至らないように自然の事物を保護・保存することが重要である。

このような観点から、今回の調査にあたり、多くの化石や鉱物の産地、その他の事物が選出された。従来、天然記念物に指定されると、かえって盗掘的な採集をさそい、指定地が荒された例があるが、だからと言って、われわれが生活する土地や地球のなりたち、生いたちを物語る事物の存在を、指摘もせずに放っておくのも、どうかと思われる。放っておいて、何かのはずみに「開発」の犠牲になって消失してしまってから、あわてるといってもないとは限らないだろう。この調査の本来の趣旨も、このような観点でみた地形・地質学的事物の指摘にあるものと思われる。

しかし、以上2つのような観点は、最低の場合には、単なる好事家の、珍しいもの、特異なものの愛好、蒐集と紙一重のものになりかねない。しかも、自然保護の問題を、これら2つの観点だけから小さく理解している場合には、「保護」ではなく 事実上、「破壊」を促進する論理や結果に陥らないともかぎらない。

つまり、「開発」と「保存」とを対立的なものとしてとらえ、「風致上や研究上、どうしても保存すべきものと、第二義的、第三義的な重要性しかないものとを分けよう」、「永久に保存すべきものと、調査がすむまで保存するもの — 調査がすめば壊してよいもの — とを分けよう」とする議論に対して、有効な反撃をなし得なくなる場合が多いのである。

しかしながら、現在の自然保護問題の重要性は、このような議論を許してよいほど小さいものでも、のんびりしたものでもない。高度経済成長のなかでの、資本による自然・空間の収奪のなかで、公害や災害から身を守り、生きる環境を、みずからの手に奪い返すという、ぎりぎりの問題が「自然保護」なのである。

住民の暮らしを守る施策が二十数年間一貫してとられてきた京都では、今、自然が、住民の生産活動の場で一挙に破壊されようとしていると言っても、あまり実感として感じられないというむきもあるかも知れない。しかし、それだからこそ、このかけがえのない自然を守り切らなければならないのであり、守るべき地形・地質も、当然、このような観点でとらえられねばならないであろう。

実のところ、この報告で事物や事象を挙げるにあたり、上のような観点が充分貫ぬかれたとは言いがたい。調査の要請そのものが、特異な地形・地質を選び出すことを期待していた面もあり、日時と経費の制約や、調査者の余裕のなさもあって、調査者自身、満足できる調査ができたとは思っていない。

ただ、この点から、一つだけ特に留意したいと言えるのは、災害との関係である。

1972年9月に、京都修学院地区に起った災害が、隣接山地の数十年前の自然破壊に密接な関係があることが最近明らかになった。このことは、現在の開発と自然破壊が、単に現在の風致や、学問上貴重な証拠を破壊するだけでなく、数十年後に、人命にかかわる災害を起す危険性をつくり出すことを教えている。

この点を考慮に入れたことによって、後の表の事物の数は非常に多くなった。とくに、南部の地域は、山地に接して京都市の市街が発達していること、今まさに市街化されつつある場所や、これから「開発」されようとしている場所が、激しく深く風化した花崗岩の地帯や、本来遊水池の役割を果たしてきた巨椋池の干拓地であることなどのために、非常に多くの事物を掲げざるを得なかった。はっきり言って、この地域は、うかつな開発をすることが将来の大災害の因となりか

ねない自然条件に満ちていると言って過言ではない。

もちろん、「自然の保護」は、上述のように、奪われた自然、生活と生産の場を住民の手にとり戻すことにあり、人間が自然に働きかける活動自体を否定するものではない。保存すべき事物としてあげられた土地も、適切な開発ならば許されることもあり得よう。

この点については、府、市町村、地域住民の間で検討が行われることもあろうが、その際も、まず科学的で具体的な調査・研究が必要であることは言うまでもない。今回の調査は、乱開発とそれによる自然破壊、災害の危険に対して、とりあえず概括的な網をかけ、今後のくわしい調査への準備をなすものと考えたい。

この報告をまとめるにあたっては、従来、各学術雑誌に発表されている資料や、各分担者・協力者により調査・研究された資料を用いたことはもちろんであるが、その他に、地元での評価や位置づけをも知るため、観光案内、旅行案内のようなものにも、できるだけ目を通した。

しかし、市町村史については、一部を除き、あたられていない。そのためもあり、今回の報告では、地元市町村で重要と考えている事物についての遺漏も少なくないものと思われる。前記、「適切な開発」の問題とも合せて、今後、この報告を叩き台に、各市町村や地域住民の方々より、積極的な補足や修正意見が寄せられることを期待したい。今回の報告は、むしろ、その上でつくられるべき本報告の試案の性格をもつものであると考えている。

なお、今回の報告書は、府下の地形、地質および自然現象などの事物・事象を上記の観点から選り出し、表にまとめたが、府下全体についての概括的な記載、説明は省略した。したがって、「まえがき」があつて本文がないという異例の形となったが、この点も、次の機会があれば改めたいと思っている。

報告書作成は、別記のメンバーにより、項目別に分担して行った。項目により、内容欄説明にも精粗があり、また全く説明のないものもあるが、この点も今回はお許し願いたい。

地形・地質代表者 志岐 常正 筆

執筆 者

京都教育大学 教育学部 教授 水 山 高 幸 (地形)

京都教育大学 教育学部 助教授 古藤田 一 雄 (地形)

京都学園大学 経済学部 講師 井 上 頴 續 (地形)

京都教育大学附属高等学校 教諭 坂 口 慶 治 (地形)

京都教育大学附属京都中学校 教諭 清 水 弘 (地形)

京都教育大学附属桃山中学校 教諭 杉 原 和 之 (地形)

京都大学 理学部 助教授 志 岐 常 正 (地質)

京都大学 理学部 武 蔵 野 実 (地質)

地形・地質・自然現象調査表

所在地	図番号	区分	内容
舞鶴市冠島	1	地形	海蝕崖 舞鶴市成生岬の沖約10kmにある日本海中の無人島。面積0.5km²。最高地170m。海蝕崖が発達し、冠に似た特徴ある島形を呈する。オオミズナギドリの棲息地で、海島の生態研究上、注目されている。森林は明治36年以来保安林に編入されているが、附近が好釣場であるため、釣人による環境破壊の恐れがある。
伊根町新井 新井崎	2	地形	海岸段丘、海蝕崖、岩門、海蝕洞 丹後半島北東端の岬。伊根の北方2kmに位置する。海抜60～80mの海岸段丘が狭いながらも発達し、丹後半島の地塊的な隆起運動を証拠づける地形学上重要な地点である。また、海岸は高さ40～80mの海蝕崖となり、岩門・海蝕洞等がみうけられる。若狭湾固定公園に含まれている。沿岸は若狭湾内の沿岸流と沖合の対島海流の会交点にあたり、古くから大型のブリ定置網漁業が盛んであった。
伊根町蒲入甲崎	3	地形	海蝕崖
網野町離湖	4	地形	潟湖 水面積2km²ほどの離湖は、砂洲により出口を塞がれた潟湖（ラグーン）で、周辺には砂丘も見られる。日本海への流出口は冬季漂砂によって塞がれたりするため、その北側に人工の放水路が掘られ、湖水位を調節しながら放流が行なわれている。海岸には琴引浜・大鼓浜・五色浜などの名勝があり夏には京阪神からの海水浴客でにぎわうレクリエーション地域となっている。

所在地	図番号	区分	内容
丹後町間人城島	5	地形 地質	波蝕紋、 中新統砂岩、礫岩 丹後半島北岸にある周囲約500mの小島。間人の北西方に位置し、橋で結ばれている。島高は約20m。第三紀層の礫岩や砂岩からなり、まわりは波蝕を受け、波蝕紋が見られる。島の一部に貝殻の破片からなる砂浜ができています。島全体は混交林に覆われており、島頂には神社がまつられて、付近の人々の行楽地となり、また、磯釣の場所ともなっている。
丹後町間人鑑島	6	地形 地質	砂嘴 安山岩柱状節理 丹後半島北岸にある小無人島で島のまわりは約100m。間人の北東方に位置する。島全体が安山岩からなり柱状節理が発達している。島のまわりは波蝕を受けて崖状になり、柱状節理が石筆状ないしは鑑状を呈している。丹後半島側から砂嘴がのびて陸繋島になりつつある。
丹後町丹後松島	7	地形	多島海（海蝕島）、海蝕洞、海岸段丘 丹後半島の北岸で、丹後町此代から中浜・袖志に至る約5kmの地域。海岸段丘の少ない丹後地方において、最もそれがよく残存している地域で、丹後半島の地形発達史の研究上重要な地点である。また、高さ20～40mの海蝕崖が発達し、穴文珠その他の海蝕洞や多数の海蝕島（丹後松島の称あり）があって、海岸地形研究上も、また重要である。景観美に富み、若狭湾国定公園に含まれている。
丹後町経ヶ岬	8	地形 自然現象	海蝕崖 潮流 近畿地方最北端の岬。丹後半島の北端部から約800m突出した半島で、高さ30～40mの海蝕崖で囲まれる。

所在地	図面番号	区分	内容
			沖には対島海流が流れ、沿岸は潮流が複雑である。標高100mの地点には灯台があり、一帯は混交林に覆われる。近くに半島一周道路が通り、観光地となっており、景観の保全が必要である。若狭湾国定公園に含まれている。
網野町大鼓浜	9	地形	河口砂洲 丹後半島の北岸にある砂浜海岸の一つ。福田川河口の浅茂川港東方に発達する長さ約1.3km、幅200～300mの砂浜。かつて福田川河口部を閉塞して、浅茂湖（現在干拓）や離湖の内湖を形成した。丹後半島北岸の代表的な河口砂洲で、海底地形・海岸地形の研究上、重要な地点である。また、海水浴の適地で、若狭湾国定公園に含まれている。現在、砂浜南部は網野町市街地の拡大により、住宅・工業用地となりつつあり、その保全が問題である。
網野町掛津琴引浜	10	地形	砂浜海岸、砂丘 丹後半島北岸にある砂浜海岸の一つ。遠浅の海岸の、長さ約1km、幅200～300mの砂浜で、海水浴場として利用されている。砂浜の一部は砂丘となって、背後の山地の斜面を覆っている。砂浜の砂を踏めば音がすることから琴引の名がついたといわれる。
宮津市、伊根町、弥栄町、大宮町、世屋高原	11	地形 地質	世屋高原 準平原遺物、第三紀層（安山岩系岩石の山峰を含む）、植物化石 丹後半島東部に発達する高原。標高400～600m第三紀層砂礫岩を切る準平原遺物で、ところどころに太鼓山（689m）、角突山（629m）などのトロイデ型の安山岩系の山峰が突出する。丹後半島の屋根に当る

所 在 地	図 番 面 号	区 分	内 容
			辺地で、集落はほとんど廃村化してしまったが、目下、丹後半島縦貫林道が建設中で、それに伴ってスキー場・ゴルフ場等の建設が進めば、植生に対する悪影響とともに第三紀層地域特有の地亡災害を誘発する恐れも生ずる。
丹後町乗田原	12	地 形	安山岩台地 丹後半島北東部の安山岩台地。標高300～400m。丹後半島の屋根に当る世屋高原の北端部で、緩斜面が起伏する。日本海方面の眺望が素晴らしいので、レジャー施設の進出も考えられるが、安山岩台地で保水性に乏しいため、開発は慎重でなければならない。また、宇川の水源地の一つで、水質管理の上でも考慮しなければならない。
伊根町本庄上布引滝	13	地 形	滝 丹後半島東部にあり、標高約240m、滝の高さ約25m。山頂の小起伏面より安山岩の急崖にかかっている。夏の豊水期には布状に流下する。本庄の低地や海上からよく見える位置にあり、古くから、地元の漁民に親しまれてきた。
弥栄町黒部	14	地 形 地 質	段丘 貝化石層 竹野川の東岸に位置する。付近には比高20mの段丘地形が発達している。この段丘は上部に段丘礫層があり、下部は粘土層や砂層からなり、その粘土層にカキなど浅海性の貝化石が存在する。近年、住宅や幼稚園のグラウンド拡張などにより、段丘を切り開いているため、この貝化石包含層が破壊されている。

所在地	図面 番号	区分	内 容
宮津市日ヶ谷	15	地 形 地 質	地 形 地 質 第三紀層 宮津市橋北地方。丹後半島北東端に近い、世屋高原の一角。日ヶ谷川の流域で、標高100m付近の第三紀砂泥層地域に、大小の地這りが発達し、馬蹄形の地這り地形が発達する。地這り災害も生じ、その研究と保全対策が必要な地域である。
丹後町竹野	16	地 形	海岸段丘
丹後町犬ヶ崎	17	地 形	海蝕崖
宮津市奈貝海岸	18	地 形	景勝の岩石海岸 若狭湾西端の栗田支湾の南海岸。宮津市由良浜の西に続く、景勝の岩石海岸。別称、小須磨。長さ約1km花崗岩山地が侵蝕を受けて、高さ60～100mの断崖をなし、桃島などの小さな海蝕島がある。若狭湾国定公園に含まれている。
宮津市由良由良浜 舞鶴市神崎神崎浜	19	地 形	丹後地方最大の河口砂洲 由良川河口の両岸に対称的に発達した砂浜海岸。西側が長さ約1.8km、幅約300mの由良浜（宮津市）東側が長さ約2km、幅約300mの神崎浜（舞鶴市）で、両者を合わせると、丹後地方最大の河口砂洲になる。低い浜堤列があり、沿岸砂洲研究上、重要な地点である。主として花崗岩砂からなり、古くは製塩が行なわれた。山椒太夫の伝説地。海水浴場。若狭湾国定公園に含まれている。最近、海水浴客のための民宿建設が盛んで、浜堤の破壊が進んでいる。一方、砂浜の内側にあたる由良川河口は、小船舶の泊地で、浚渫作業が行なわれるため、砂浜の形状に影響を及ぼすことが考えられる。

所在地	図番号	区分	内容
舞鶴市成生 成生岬	20	地形	岬 大浦半島の北端にある岬で、若狭湾の中で最も突出している。比高約40mの崖をもち、その上に灯台がある。風光美に恵まれ、若狭湾国定公園に含まれている。磯釣の場所となっている。
舞鶴市 青葉山	21	地質	白山火山系死火山（開析火山） 舞鶴市と福井県大飯郡との境をなす標高約700mの山。輝石安山岩よりなる白山火山帯の死火山で、コーデ型の山容を持ち、丹後富士または若狭富士とも呼ばれる。山頂から見る若狭湾一帯の眺望は素晴らしく、若狭湾国定公園に含まれている。
舞鶴市 小橋 アンジャ島	22	地形	礫岩の小島、岩礁 舞鶴市三浜の北部にあり、礫岩の小島といくつかの岩礁からなり、地元漁民の航行の難所となっている。若狭湾国定公園に含まれている。
舞鶴市小橋 水ヶ浦	23	地形	沈降海岸地形
舞鶴市 舞鶴湾	24	地形	溺谷
宮津市 天ノ橋立	25	地形	砂嘴 宮津湾北西岸の江尻から宮津市北西の文珠まで、阿蘇海を画して南西にのびる砂嘴（天ノ橋立）が発達している。長さ約3km、幅40～100m。宮津湾内の沿岸流によって形成されたとみられるが、近年は逆に沿岸流による侵蝕が進んでおり、沿岸砂洲や砂嘴の形成メカニズムを知る地形学上重要なポイントになっている。松並木が続き、古来、日本三景の一としてあげられ、若狭湾国定公園に含まれ景観的価値は高いが、目下侵蝕によるやせ細りや松の枯死問題が発生している。

所在地	図番号	区分	内容
網野町郷	26	地質	郷村断層 国鉄宮津線網野駅南方約2.5 km。1927年3月7日に発生した奥丹後地震によって生じた典型的な地震断層。網野町下岡から峰山町安に北北西から南南東に走る数条の雁行状に走る断層のうち、郷村～公庄間の道路上に、垂直転位0.6 m、水平転位2.6 mの喰い違いを生じたもので、地震・地形学上、貴重な証拠となっている。天然記念物に指定されているが、日常盛んに利用する自動車道であるため、その保全はやや不十分となっている。
網野町 生野内	27	地質	断層崖 郷村の南南東約1.5 km。1927年3月7日に発生した奥丹後地震による、郷村断層の垂直転位が明瞭にあらわれた地域で、地層のくい違い部分がみられるが、現在は保全が不十分となり、観察も難しい状態なので、早急に原状回復をする必要がある。
宮津市 滝馬	28	地質	宮津花崗岩
峰山町 河辺	29	地質	河辺石産地
峰山町 五箇	30	地質	河辺石産地
久美浜町 湊宮 網野町 浜詰 小天橋、丹後砂丘	31	地形	海岸段丘上の砂丘 網野町浜詰から久美浜町湊宮まで、約6 kmに及ぶ砂浜海岸で、その西半分の約3 kmは久美浜湾口を閉塞する半島(小天橋)となっている。ここでは海岸から約0.5～1 kmの範囲に、海からの飛砂が被覆し、京都府下では最も典型的に砂丘地形が発達していた。しかも、砂丘の多くが標高5～20 mの海岸段丘上に分布し、一見大砂丘にみるという特殊性をもち、わが国における砂丘研究上、注目されていた。

所 在 地	図 番 面 号	区 分	内 容
			しかし、昭和24年から44年まで治山工事を実施した結果クロマツ林になり農地、人家を保護している。 また、砂丘砂の下には縄文～弥生時代の生史住居跡（浜詰・箱石など）が埋没していて考古学・先史地理学上注目されている。
久美浜町 久美浜湾	32	地 形	閉鎖された陥没海湾 京都府の北西部に位置し、水面積7.13km²、周囲2.4km最大水深20mの内湾性の強い洪積世の時代に生じたと考えられる陥没海湾であるが、現在は小天橋と呼ばれている砂洲の発達によって湾口をせばめられ、湾の西端に狭い水道を残し、そこから日本海の海水が出入し、潟湖（ラグーン）に近い塩湖となりつつある。透明度は河口水域から湾中央部（最深部）附近までは0.8mで湾口部水域にいくにつれて0.7～1.0mの値で変動している（昭和45年）。水温分布は表面から2～3m層附近で躍層がみられ、塩素量分布は、表面から4m位までは低いかん水の層となっており、以下16～17%程度の濃度で高濃度の塩水が停滞している。
久美浜町 兜山	33	地 形	山峰 久美浜湾東岸にそびえるトロイデ型の山。標高192m。秀麗な山形をなし、久美浜湾と一体となって美しい景観を作る。山体は流紋岩からなり、その隆起によって山麓の第三紀層がひきずりを受けている。また、湾東岸の海岸段丘の形成や南麓の川上谷川河口部の大きな曲流現象と、兜山生成との間にも関連があるとみられ、久美浜湾周辺の地形発達史研究上、重要なポイントになっている。目下、山頂からの眺望や景観の良さによって、ドライブウェイその他観光施設の建設が進み、原形破壊の恐れがあり、保全対策が必要である。

所在地	図面番号	区分	内容
網野町 木津	34	自然現象	温泉 数軒の温泉旅館が水田中に並んでいるが、泉源は丹後木津駅付近の山麓にあり、そこから引湯している
久美浜町 高竜寺岳	35	地形	準平原遺物
綾部市 黒谷	36	地形	河川の争奪 国鉄舞鶴線沿いの黒谷は現在も和紙の製造を続けている集落である。伊佐津川は、黒谷付近で峡谷をなし、西舞鶴の市街を貫流して舞鶴湾に注いでいる。かつて、由良川の中位段丘形成時代の一時期には、福知山盆地内に粘土、砂泥のような細粒の静水堆積をみた池沼時代があった。当時、伊佐津川の上流の於与岐の谷は野瀬付近において、福知山盆地側の由良川流域の一支流であったと思われる。その後、野瀬～黒谷間において河川争奪により、於与岐の谷が伊佐津川により奪われたと思われる。黒谷附近は由良川水系の第四紀における河川争奪史上の問題の地点の一つであろう。
綾部市 八津合町 八津合	37	地形	流路跡(上林川) 由良川の支流、上林川の中流に開けた谷底平野部にみられる。上林川の流路は、南側の古生層と北側の中生代岩石(はんれい岩)との境界線に沿い、かつ、構造線に規制された流路と思われる。上林川河谷の南岸には、貫通丘陵と、その南側を迂回する流路跡を思わせる地形がいくつかみられる。八津合の馬場附近もその一つである。由良川水系の河谷発達史の一コマを示す地形であろう。
舞鶴市 吉坂	38	地質	舞鶴層群化石産地、石灰岩 舞鶴層群の南縁に認められる石灰岩体の1つ、海百合の茎や鮮虫類を産す。岩体が小さいので、稼行の対象と

所在地	図番 面号	区分	内容
			されると、ただちに消失してしまう。
舞鶴市 荒倉、 金剛院	39	地質	難波江層群化石産地 舞鶴地帯南縁に沿って分布する難波江層群の準模式的発達地、ミネトリゴニア(Minetrigonia)、パレオファルス(Palaeopharus)その他の二枚貝化石を産す。
舞鶴市 荒倉	40	地質	荒倉層 荒倉層は、荒倉付近、鹿原南東方、および吉坂峠付近の るか所に、僅かに露出する。わが国におけるラデノーカー ニアンの稀な分布地の1つとして、きわめて重要である。 特に、荒倉は、その模式地である。アンモナイト、二枚貝 などを産する。
舞鶴市 鹿原 金剛院	41	地質	舞鶴層群化石産地、石灰岩 舞鶴層群の分布の南縁に沿って認められる石灰岩体の1 つ。海百合の茎や蘚虫類、珊瑚などを産す。岩体が小さく、 採掘されると消失する恐れがある。
舞鶴市 菅坂峠道	42	地質	舞鶴層群模式地 わが国における二畳系中上部の模式的発達地の1つ。
舞鶴市 菅坂峠	43	地質	舞鶴変成岩 いわゆる夜久野南帯の夜久野岩類の中に、角閃岩、黒雲 母片岩などの変成岩が含まれることが近年明らかにされた。 菅坂峠付近には、その模式的な発達地がある。
舞鶴市 中舞鶴	44	地質	舞鶴花崗岩 舞鶴地帯に分布する特徴ある花崗岩質岩。

所在地	図面番号	区分	内容
綾部市 高槻、基内	45	地質	難波江層群
綾部市 黒谷、基内	46	地質	難波江層群化石産地 いずれも難波江層群N ₂ 層、N ₃ 層の代表的化石産地の1つである。ミネトリゴニア(Minetrigonia)、パレオファルス(Palaeopharus)などの二枚貝を産する。
舞鶴市 志高	47	地質	志高層群 二疊系大浦層および夜久野岩類を不整合に被って発達する三疊系。モラッセ堆積物の典型。無煙炭層を僅かに含む。各種の二枚貝や植物化石を産する。時代論に関し、三疊紀前期とする説と、後期とする説があり、化石の再検討や、新な発見が望まれ、化石産地の保存が必要である。
宮津市 加悦町 大江町 大江山一帯	48	地形	残丘地形 標高83.3m。蛇紋岩と橄欖岩よりなり、ニッケル鉱を採掘していたことがある。周囲よりやや高く、やや大きい山体(地塁)をなし、かたい岩質のために、残丘の性質を帯びている。大江山伝説の大江山には二説があって、その一つがこの大江山で、鬼の岩屋などの史跡がある。天ノ橋立などの海岸の眺望も可能で、地形・自然・歴史から総合的にみて、保護すべきである。
大江町 波美	49	地形	河岸段丘 由良川河谷の中であって、河守の西にある。由良川の流路変遷史をみると、現在は河守を経て、北流して日本海に注いでいる。しかし、中位段丘形成時代の一時期には、由良川は福知山で南流し、竹田川河谷をさかのぼり、柏原を経て、加古川に入り、瀬戸内斜面へ流れていたこ

所在地	図面番号	区分	内容
			とが考えられている。当時、波美付近に日本海斜面と瀬戸内斜面の間の谷中分水界があったと想定されている。河守付近の水は南流して、支流として、福知山付近で本流の由良川に注いでいたと考えられている。波美付近は、第四紀の河谷史上の論争点である。
舞鶴市 大江町 福知山市 由良川河谷	50	地形	洪水氾濫を起しやすい峡谷地形 由良川の下流部は、福知山から日本海への河口まで、峡谷をなしている。峡谷内では、由良川の河床勾配はゆるやかで、河口からかなり上流まで感潮河川となっている。洪水時には、由良川は、峡谷内に氾濫し、現流路沿いに自然堤防が発達している。峡谷内の谷底平野の土地利用や集落立地、生活・生産様式の中に、水害に対応する様相がみられる。このような地形と水害の関係は、日本海に注ぐ大・中河川に共通な特性である。
宮津市 大江町 加悦町 大江山一帯	51	地質	河守超塩基性岩
大江町 河守鉾山	52	地質	磁硫鉄鉾
加悦町 桜内	53	地質	ニッケル鉾物産地
加悦町 赤石岳	54	地質	赤石岳超塩基性岩
大江町 仏生寺	55	地質	タングステン鉾物産地
舞鶴市 岡田由里	56	地質	志高不整合 三疊系志高層群が、夜久野町岩類の古期花崗岩や変成岩を不整合に被うことを示す証拠として、本州造山運動の研究上きわめて重要である。露頭そのものは民家の裏の崖に

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			あるが、崩壊のおそれがある。個人では保存が困難であろう。
大江町 河守	57	地 質	河守変成岩 いわゆる夜久野北帯の河守付近より小原田にかけて分布する。角閃岩、片麻岩、ミロナイト～ヘリフリンタ様岩などよりなる。本州造山運動研究の上で、あるいは、日本の基盤問題研究の上できわめて重要である。
大江町 公庄	58	地 質	公庄層化石産地 舞鶴層群公庄層の化石産地。ネオシゾドウス (<i>Neoschizodus</i>)、バケベリア (<i>Bakevellia</i>) などの二枚貝やベレロホン (<i>Bellerophon</i>) その他の腕足貝などを産する。三疊紀型の化石と二疊紀型の化石を共産する世界的にもきわめて重要なものである。従来、かえって荒されることを恐れて、天然記念物の申請などが行なわれていなかった。最も重要な露頭は河西小学校の裏の崖であるが、風化・崩壊のおそれがある。波美の東方の公庄では、かつて南に向かって流れていた河流によってできた礫のかさなり方が段丘礫層の露頭でみられる。
大江町 公庄	59	地 質	公 庄 層 舞鶴層群最上部、舞鶴層群堆積盆が縮少し、ひあがる前に堆積した、含礫岩層。二疊系最上部層であり、その化石には三疊紀型のものも含む。生物進化史研究上、また、本州造山運動研究上、きわめて重要である。
大江町 河西	60	地 質	河 西 層 夜久野層群の準模式的な発達地の一つ。二枚貝、アンモナイト等を産する。

所 在 地	図 番 号	区 分	内 容
大江町 河東	61	地 質	三畳系・二畳系 夜久野層群の準模式的な発達史の一つ。
大江町 奈良原	62	地 質	二畳―三畳系不整合
福知山市 富国鉱山	63	地 質	ビスマスを産す。
夜久野町 宝山	64	地 形	玄武岩 トロイデ状火山地形
夜久野町 夜久野ヶ原	65	地 形	熔岩台地
夜久野町 水上	66	地 質	堰止湖堆積物
夜久野町 額田	67	地 質	夜久野層群 わが国における三畳系中・上部の模式的発達地の一つ。 二枚貝、アンモナイト等を産す。 下
夜久野町 水上	68	地 質	玄武岩柱状節理
美山町 芦生 三国岳	69	地 形	開析準平原、溪谷、湿原 京都府、滋賀県、福井県の県境にあって、丹波山地の中の小起伏の状態をよく保存している地域である。由良川の源流部をなし、標高959mの三国岳などがみられる。京都大学附属芦生演習林の中にあり、自然の林相をかなりよく示している。小起伏面は尾根の高さが800～900m、谷底の高さ600m、両者の比高200～300mで起伏や斜面の勾配からみて、準平原というよりは、老年期の地形という表現が妥当であろう。周囲の日本海斜面や琵琶湖斜面の流域の地形は尾根と谷底の比高が400～500mに達し、開析がやや進んでいて、それに比べると、小起伏面がよく保存されているとい

所在地	図 番 面 号	区 分	内 容
			える。
京都市左京区花背 大悲山	70	地 形	チャートの岩峯 硬いチャートでできた地形。行場になっている。
京都市左京区花背	71	地 質	石灰岩、フズリナ産地 丹波山地東端部のフズリナ産地として貴重であるが、 すでにほとんど失われている。
京都市左京区花背別所	72	地 形	準平原遺物
京都市左京区 尾越・大見	73	地 形	準平原遺物 丹波山地の高度水準は東部の800～900m、西部 の400～600mに大別され、それぞれに小起伏面地 形がみられる。京都市の北部にある、大見・尾越は前者 の高度水準の小起伏面がみられる。小起伏面から尾根の 高度は800～900m、谷底の高度は600～700 m、その比高は200m位で、谷底はひらけ、水田化し、 集落がみられる。その外側の安曇川の谷の谷底高度は約 400m、大堰川の谷底高度は300～400mで谷壁 斜面の傾斜は険しい。小起伏面は過去に形成されたもの の遺物で、その小起伏面化は、準平原化作用によるもの と考えられている。他の地域にみられるような気候に対 する気候地形とか、現輪廻における動的平衡のような検 討はここではなされていない。基盤の岩質は、古生層で 急斜していて、小起伏面は、それを切ってひろがってい る。小起伏面がここによく保存されている機構について は、現輪廻の侵蝕の回春がおくれているためと思われる。
京都市左京区花背別所	74	地 形	溪 谷

所在地	図 番 面 号	区 分	内 容
京都市左京区花背別所	75	地 質	閃 緑 岩
京北町 八丁	76	地 形	開析準平原, 溪谷
京北町 井戸	77	自 然 現 象	積 雪
美山町 大野	78	地 形	由良川河岸段丘 由良川の上流には、芦生の上流付近まで段丘面の分布がみられる。支流をあわせて、流域面積が大きくなるにつれて段丘地形がよく発達するようになる。岩江戸、大野付近は段丘地形がよく発達している地域の1つである。付近の現河床は峡谷をうがち、現在、大野ダムの水を湛えている。岩江戸、大野の段丘は広くひらけ、集落や水田がある。
瑞穂町 質志	79	地 質	石灰岩、フズリナ化石 丹波山地中央部の含フズリナ石灰岩として貴重である。
瑞穂町 質志	80	地 形	鐘 乳 洞 この付近の地質は古生層よりなり、その中に石灰岩層が挟まれていて、そこに鐘乳洞がみられる。ごく小規模なもので、長さ100m、幅4m、高さ8m位で、鐘乳石、石筍、石柱などがみられる。昭和の初めに発見され、名勝・天然記念物に指定されている。丹波山地の中には石灰層が乏しく、ところどころで採掘されているが、このようなカルスト地形は珍しい。
和知町 大倉	81	地 形	由良川の河岸段丘 由良川の上流・中流には河岸段丘がみられる。しかし、段丘地形は小刻みで幅が狭く、ところどころ傾斜していたりして、段丘地形はやや複雑である。しかし、大倉付近は、段丘の幅が広く、段丘礫層やその下の基盤がみえる露頭も

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			ある。段丘面は中央の古生層よりなる貫通丘陵とそれを迂回する旧河床よりなっていて、中位段丘面に対比される。
和知町 安栖里	82	地 形	由良川の河岸段丘 由良川の上流・中流には河岸段丘がかなり連続しているが、段丘の幅が狭く、小刻みで、段丘面が傾斜しているところが多く、段丘地形の発達はよくない。大倉の下流の安栖里では、中位段丘、下位段丘がみられ、段丘ごとに段丘面の開析度が異なり、土地利用も異なっていて、中位面は雑木林、下位面は水田や集落となっている。上下段丘間の差異を比較しやすい場所である。
和知町 中山	83	地 形	由良川と桂川の河川の争奪 由良川の支流高屋川が由良川本流に合流する前に中山で峡谷をつくる。高屋川は上位段丘面時代には南流して、胡麻の谷中分水界を越えて、桂川に合流して瀬戸内斜面へ流出した。後に、由良川の侵蝕の回春により、谷頭侵蝕によって、中山にあった由良川流域と高屋川流域の分水界を貫き、高屋川を由良川流域へ争奪した。そのために新たに胡麻に由良川と桂川の間の谷中分水界ができた。 中山の峡谷の谷幅が狭いのは、このように高屋川の現在の河谷の形成が新しいためである。他方、かつて桂川が上位段丘面時代に高屋川の峡谷を通して由良川に合流していたという考え方も出されている。
和知町 長老ヶ岳	84	地 形	丹波山地の残丘地形 丹波山地には高原状の地形が遠望されるが、近づいてみるとかなり起伏の大きい老年期山地であり、その中に現輪廻の谷の侵蝕が回春していて、二輪廻の地形を呈している。この山地は国鉄山陰線の走る位置をはさんで、東側に一段高い標高800～900mの尾根が目立ち、西側に一段低

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			い標高400～600mの尾根が目立つ。長老ヶ岳は標高917mで、東側の高位水準にみられる峰の一つである。 由良川の北側にあつて、周囲の600mの峰の群の中にあつて一段高く、残丘状を呈している。
日吉町 胡麻	85	地 形	由良川と桂川の谷中分水界 由良川流域と淀川の支流の桂川流域は胡麻の谷の中で、谷中分水している。すなわち、国鉄山陰線の胡麻駅の西方を胡麻原といい、由良川水系の畑郷川と桂川水系の支流、田原川の支流とが分水している。標高208mで、日本海斜面と瀬戸内斜面の分水界にあたる。この付近は第四紀の砂礫層よりなる。この第四紀層は由良川の上位段丘面に対比されている。この砂礫層は高屋川の上流部が瀬戸内斜面へ流出し、桂川と合流していた当時の旧河床堆積物で、後に高屋川上流部は由良川の侵蝕の回春により争奪されたと考えられている。他方、この砂礫層は、桂川が日本海斜面へ流出し、由良川と合流していた当時の旧河床堆積物で、後に桂川は亀岡盆地へ流れるようになったとする考えも出されている。丹波山地の中には、このように、日本海側と瀬戸内側の谷中分水界に旧河床堆積物をのせている例が、竹田川の上流の黒井などにもみられる。
和知町鐘打 鐘打鉢山	86	地 質	タングステン産地
瑞穂町 井尻	87	地 形	高屋川と土師川の谷中分水 由良川の支流高屋川の上流は、土師川と須知の盆地地形の中で谷中分水している。国道9号線沿いの集落、井尻の東の谷中分水もその一つである。標高200m位である。しかし、ここには砂礫層などの旧河床堆積物を欠き、この付近における土師川と高屋川の旧流路の変遷過程は明らかでない。

所在地	図面番号	区分	内容
丹波町 蒲生	88	地形	須知の洪積台地 由良川の支流高屋川の上流の流域は谷が開け、須知を中心に小起伏面がひろがり盆地状となっている。盆地は東西方向にのびている。この盆地の中で高屋川と土師川が分水している。盆地の中にみられる基盤の古生層よりなる小起伏は第四紀の砂礫層で埋積されている。砂礫層は中位段丘層に対比され、旧河床堆積物である。この砂礫層の堆積面はいわゆる洪積台地の様相を呈し、東部を蒲生野とよぶ。現在、開拓されて、畑地化し、一部は運動場や宅地となっている。付近にはサギ草の自生地がみられたが、最近消滅してしまったようである。
瑞穂町 質美	89	地質	三峠断層 近畿地方における最近の地盤の動きの現れとして重要。
福知山市 長田野	90	地形	洪積台地 由良川は中流の福知山盆地の中で、以久田野、長田野などのやや広い洪積台地をひろげている。長田野の洪積台地面は、標高70～80mで、由良川の中位段丘面に対比されている。洪積台地は、由良川の流路が、日本海側へ流出したり、瀬戸内側へ流出したりして、流路の変遷が可能であった頃、多分、河床勾配がゆるやかで、時には池沼の状態を呈したことがあるような環境のもとに形成されたと思われる。現在、洪積台地面は切り開かれて、長田野工業団地が造成されつつある。長田野は、旗竿山などにみられる基盤の古生層の起伏を埋めたところの主として由良川起源の砂礫層よりなる台地であり、地表に赤色土化したシルト層やクロボクがみられる。
綾部市 以久田野	91	地形	洪積台地 由良川は中流の福知山盆地の中で、以久田野、長田野などのやや広い洪積台地をひろげている。以久田野の洪積台

所在地	図 番 面 号	区 分	内 容
			地面は標高80～90mで、由良川の中位段丘面に対比されている。洪積台地の形成機構は長田野の場合と同様で、由良川の流路が、日本海へ流出したり、瀬戸内海へ流出したりして、流路の変遷が可能であった頃、多分、河床勾配がゆるやかで、時には池沼の状態を呈したことがあるような環境のもとに形成されたと思われる。現在、洪積台地面は茶畑などに利用されている。以久田野は、砂礫、砂泥層よりなり、かつて亜炭が採掘されたこともある。
福知山市 中	92	地 形	河 跡 湖 福知山市街の北、由良川の対岸にある中の付近の沖積面に池がみられる。由良川の河跡湖である。由良川は、福知山盆地より下流が狭い峡谷である上に、河床勾配がゆるやかなので、洪水時に逆流氾濫して湛水する。また、由良川の流路は沖積面上で流路の変遷をくりかえしてきた。中の河跡湖はその一部分である。
福知山市 由良川	93	地 形	由良川沿い氾濫原地形 由良川は中流の福知山盆地において、洪水時に氾濫する。福知山盆地より下流が狭い峡谷となっていて、河床勾配がゆるい上に、福知山盆地に広い流域からの諸河川の流入により、流量の出入の収支のアンバランスにより氾濫するものと思われる。そのために、由良川の流路もはげしく変遷し、福知山盆地の沖積面に旧河道を多く残している。その河道はやや刻み込まれた河床、その両側にならぶ小高い自然堤防、河床中に湛水している河跡湖などの地形に示される。これらの旧河道は沖積面に微起伏を与え、桑畑は、旧河道間の中洲に立地している。
三和町 千束、梅原	94	地 形	河岸段丘 由良川の支流、土師川の中流には段丘地形が顕著である。

所在地	図面番号	区分	内容
			由良川本流の段丘地形は小刻みであり、段丘面が傾斜していることが多く、模式的なものは多くない。支流の竹田川の段丘は堆積段丘の傾向があり、谷を埋積した形になっている。これらに対して、土師川の段丘は典型的な河岸段丘で、侵蝕段丘の形式で、基盤と砂礫よりなる段丘層の不整合も露頭でみられる。特に、千束・梅原を中心に、その上流や下流によくみられる。段丘面は中位面に対比される。
夜久野町 高内	95	地形	ケルンバット、ケルンゴル
夜久野町 高内	96	地質	二疊系石灰岩、化石産地 舞鶴層群中部に含まれる石灰岩。腕足類その他の化石を産する。
夜久野町 日置	97	地質	日置層化石産地 難波江層群日置層の化石産地。二枚貝を産したがすでに現在はなかなか見出されない。
夜久野町 額田	98	地質	二疊系額田層化石産地 腕足類その他を産することがある。
夜久野町 牧川南側	99	地質	夜久野岩類 舞鶴地帯を特徴づける夜久野岩類の模式的発達地。
京北町 芹生 芹生峠	100	地質	二疊系枕状熔岩 二疊紀に海底火山活動のあったことを示す。
京都市左京区鞍馬本町 鞍馬川	101	地形	峡谷

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
京都市左京区貴船町 貴船川	102	地 形	峡谷
京都市左京区貴船町 鞍馬奥ノ院	103	地 質	石灰岩、フズリナ化石 鞍馬山一帯には数ヶ所に石灰岩があり、フズリナその他を産する。
京都市、百井、花背、 貴船、魚谷峠、棧敷 ヶ岳、京北町芹生	104	地 形	小起伏面 京都市北部から京北町につづく京都盆地の北山山地である。丹波山地の南端にあたり、600～800mの小起伏面をなしている。主として、杉や檜の樹林におおわれ、北山独特の静けさと落ち着きをかもし出し、ハイカーや登山家に親しまれている。京都市民のレクリエーション地域としての今後が期待される。
京都市左京区小出石 町 途中峠	105	地 質	花折断層 京都市から滋賀県大津市堅田町へ通じる教賀街道にある。京都府と滋賀県の境をなす分水界で、標高374m。比良山地の西側をほぼ南北に走る花折断層に沿い、ここから断層谷が、北へ安曇川、南へ高野川となって流れる。付近では山林開発が行われているが、京都市民のハイキングコースとしての整備が待たれる。
京都市左京区大原	106	地 質	崩積層、花折断層露頭 京都市の東北部を占める大原の里の北にある。断層谷、高野川流域にひらけた標高300m前後のゆるやかな傾斜地で、京都盆地の東縁を形成する花折断層の露頭や、比叡山系の崩積層がみられる。また、大尾山から流れ出た谷が古知平にはいるところに音無の滝がある。雍州府志によれば、近くでこの流れを聴いても、水音がなかったことに名のおこりがあるという。

所在地	図番号	区分	内容
			大原から古知谷を結ぶ一帯は天皇陵や有名寺院が多く、ひなびた里として知られ、観光客が激増しているが、それにつれて、車公害や観光開発による自然破壊も目立っている。
京都市左京区八瀬 大原	107	地形 地質	断層線谷 花折断層帯
京都市左京区八瀬 比叡山	108	地形	残丘状地形
京都市左京区八瀬 比叡山四明岳	109	地質	比叡山ホルンフェルス 京都市の東北にそびえる。南北に連なる山体は地塁で、東西両面には数列にわたって、断層線がみとめられ急斜面を作っている山体の大部分は古生層よりなるが、南部には花崗岩の進入がみられ、その接触変成部に、長い侵蝕にたえた残丘状の最高峰四明岳848mがある。頂上からみる京都市街地や琵琶湖の眺望はすばらしく、琵琶湖国定公園に含まれている。延暦寺をはじめ史跡や文化財にも恵まれ、観光客は年間を通じて多いが、観光開発に伴う環境破壊も心配される。
京都市左京区比叡平	110	地形 地質	小起伏面地形 北白川花崗岩、マサ 如意ヶ岳と比叡山の間で、古生層を貫いて進入した花崗岩の小起伏面地形である。標高は400～500m前後、京都市と大津市や比叡山とを結ぶ山中越として、古くから利用されてきた。最近、風化の進んだこの地域で、住宅地開発がみられる。そのため、樹木伐採や地形の人為的変更が行なわれ、良質の花崗岩砂採取とあいまって、環境の破壊が著しく、自然災害発生も心配される。

所在地	図番号	区分	内容
京都市左京区修学院 一乗寺	111	地質	ケルンバット、ケルンコル、北白川花崗岩 この場所を花折断層が通っている。
京都市左京区北白川	112	地形	北白川扇状地 比叡山や如意ヶ岳に源を発する白川が京都盆地へ流れ出す谷口に形成したものである。両方の山の間に進入した花崗岩地帯を上流部に持つため、白砂の花崗岩が風化してきた土から成り、川筋では白川石や白川砂の採取がみられる。扇端部に近い南斜面では豊富に水がわき出し、縄文遺跡や白鳳時代の創建といわれる北白川廃寺もあり、京都盆地でもっとも早く開発された地域といわれる。扇央部では高燥を利用した花卉栽培が古くから行なわれ、京都市へ売りに出ていた。近年、この地域は住宅地化が進み、花畑も狭くなってきた。
京都市左京区 如意ヶ岳、五別所	113	地質	スカルン鉱物 大文字山・如意ヶ岳の接触変成鉱物産地のうち、とくに古くから有名なもの。
京都市左京区 大文字山、如意ヶ岳	114	地質	ホルンフェルス、接触変成鉱物 京都盆地の東側に位置する。如意ヶ岳(474m)の西側の前山に精霊送りで有名な大文字(約460m)がある。如意ヶ岳と北の比叡山との間で、古生層を貫いて花崗岩が進入したため、接触変成してかたくなったホルンフェルスや珪岩の山地となり、長い侵蝕にたえた、残丘状の山となっている。接触変成鉱物として、重晶石、珪灰石、ざくろ石、褐簾石が出る。 西麓の銀閣寺から大文字・如意ヶ岳を経て滋賀県大津市等山へ通じるハイキング・コースがあり、人々に親しまれている。

所在地	図 番	面 号	区 分	内 容
京都市左京区市原	115		地 形	河川争奪 現在、静原川は市原町から西流して鴨川に流れ込むが、もとは市原町から南下して、長代川にはいり、岩倉盆地を経て高野川に合流していた。これは、地盤運動に伴う河川争奪現象があったためで、当時の礫層が残っている。なお、市原は、京福電車鞍馬線が通じ、近年住宅地化が進んでいる。
京都市左京区柊野	116		地 形	河岸段丘 京都市の北部にある。鴨川が形成した2～3段の河岸段丘がみられ、標高約100～140mの高燥地である。鞍馬街道沿いの要地で、住宅地化が著しいが、無秩序な宅地開発のもたらす景観破壊が懸念される。
京都市左京区深泥池	117		地 形	後背低湿地
京都市北区 薬師峠、岩屋不動	118		地 形	岩嶺、山嶺
京北町細野 余野	119		地 形	準平原遺物 大堰川の上流、周山の南、余野川（大堰川—細野川の支流）の北側には、標高500～600mの小起伏面遺物がひろがる。その遺物の規模は、東西3km、南北4kmほどで、これは丹波山地にひろがる低位水準の小起伏面に対比される。谷底の高度400m、比高100～200mで、谷がやや広く、起伏の傾斜がひらけている。
京北町細野	120		地 形	滝又滝 余野の小起伏面上を東北より西南へ流れる。細野川の支流にあって、標高460mぐらいの所にある。丹波山地の低位小起伏面に大堰川の侵蝕の回春が及んで作られ

所在地	図 番	面 号	区 分	内 容
				たものであろう。
京北町細野	121		自然現象	霧海
京北町柏原	122		地 質	輝緑凝灰岩
京北町宇津	123		地 形	宇津の峡谷 大堰川が、周山から園部にいたる間に峡谷部がみられる。とくに下宇津から上世木の間が著しい。付近は古生層の標高400～600mの山地がひろがる。その中に峡谷を刻み穿入蛇行している。昭和26年の天若ダムの築造で人造湖ができたが、さらに淀川水系の治山利水を目的とした宮村ダム建設計画が検討されつつある。
京北町細野 芦見谷	124		地 形	芦見谷峡谷
京北町細野 竜ヶ岳	125		地 質	竜ヶ石、(“アジノール板岩”)、コノドント化石
京都市右京区 越畑	126		地 形 地 質	断層角盆地 新生代層 亀岡盆地の東、愛宕山地の西麓に南北に細長い越畑盆地がある。標高400m前後あり、亀岡盆地を主盆地とする副盆地をなす。亀岡盆地をつくる曲降運動に伴って、階段状に落ち込んだように見える。盆地を埋めている角礫・砂泥・粘土地層は鮮新更新統である。
八木町 神吉	127		地 形	断層角盆地 亀岡盆地の東、丹波山地の中に、北西-南東方向にひろがる神吉盆地がある。この盆地は、標高360m位、越畑と同じく、亀岡盆地の副盆地で、曲降運動に伴って、階都状に落ち込んだように見える。東側に急崖があり、

所 在 地	図 番 号	区 分	内 容
			断層角盆地状であるが、盆地は埋積されて、平らで、水田となっている。
亀岡市旭町 郷ノ口	1 2 8	地 形	峡谷
亀岡市旭町 三俣川	1 2 9	地 形	扇状地 亀岡盆地の北部で亀岡断層崖を刻む三俣川が、谷口に作った扇状地である。三俣川は扇状地上で天井川となり、大堰川に合流する。この扇状地表面上に、山階、印地、屋賀等の集落が発達している。とくに扇状地は、盆地上に突起する古生層の小丘に扇状地の発達を遮られて、そこに扇端がみられる。
京都市北区鷹ヶ峰	1 3 0	地 形	洪積台地と河岸段丘 京都盆地の北西隅、鴨川の西の釈迦谷山山麓に洪積台地の地形がみられる。紙屋川が鷹ヶ峰に扇状地を拡げているように見えるが、大阪層群よりなり、この地層が変位して周縁に河岸段丘が刻まれたものである。見かけ上の扇状地形、いわゆる偽扇状地である。鷹ヶ峰集落は、京都より杉坂を経て、周山にいたる街道の谷に集落として発達し、付近には光悦寺や常照寺があり、京都市街の展望がすぐれている。また、秀吉の築いた、「お土居」の西北隅にあたり、その遺跡がみられる。
京都市北区雲ヶ畑 祖父谷川、中津川、 真弓川	1 3 1	地 形 自然現象	峡谷、霧海
京都市北区氷室	1 3 2	地 形	準平原遺物 京都盆地の西北に、標高350～550mぐらいの小起伏面がひろがる。丹波山地の低位水準の小起伏面に対

所在地	図 番 面 号	区 分	内 容
			比されるもので、京都盆地に向って北から南へ傾斜している。谷底は高度300~400m、比高100~200mで、起伏が小さく、傾斜はゆるやかである。昔、御所におさめる水を貯蔵したのでこの地名がある。
京都市北区中川町	133	地 形	菩提滝 菩提川は清滝川の支流で沢山(516m)に源を発し氷室の小起伏面から流れ落ちて、そこに菩提滝をかける。小起伏面に清滝川の現輪廻の侵蝕の回春がおよんで形成されたように思われる。滝壺からえられる砂は北山杉の磨き丸太を磨くのに用いられる。
京都市北区、右京区 清滝川	134	地 形	金雲溪、金鈴溪(参照 139)
京都市右京区御室	135	地 形	御室台地地形 京都盆地の北西隅、衣笠より嵯峨にかけては洪積台地であり、やや開析されている。台地の南縁は桂川の側方侵蝕によってできた段丘崖がみられる。大覚寺・広沢池等の史跡に富み、古都保存法によって景観が守られている。又、台地に双ヶ岡(116.2m)が突き出ているが、基盤は古生層からなる。
京都市右京区双ヶ岡	136	地 質	日本式双晶
京都市右京区梅ヶ畑 奥 殿	137	地 質	"アジノール"、コノドント化石
京都市右京区梅ヶ畑 清 水	138	地 質	"アジノール"、コノドント化石

所在地	図面番号	区分	内容
京都市右京区 亀岡市、 嵐山、保津川	139	地形 自然現象	峡谷 鉾泉 大堰川は、亀岡盆地と京都盆地の間で保津川と名前を変えて嵐山で京都盆地にはいり桂川となる。途中で清滝川（飯森山、天竜山に源を発する）を合流する。保津川の谷は峡谷をなしている。峡谷は、東西方向の背斜軸をもつ古生層の背斜部に刻み込まれた谷で、北の愛宕山（890.5m）と南の小塩山（641m）との間の谷中谷をなし、峡谷間は穿入蛇行し、先行谷と考えられている。保津川は、峡谷部の長さ12kmの間で京都盆地と亀岡盆地の高度差50mくらいを急流となって流下し、嵯峨で峡谷部を出る。河床は、かつて1606年（慶長6年）角倉了以によって開削され、丹波の木材の筏流しを容易にした。 清滝川の峡谷は、急斜する古生層を深く刻みこんで溪谷美をなしている。かつて愛宕山の南斜面を開削して南流し、直接京都盆地へ流入していた必従谷があったが、清滝川の形成によって、左岸に標高200mぐらいのところに風隙谷を残している。
京都市右京区壁岩 屏風岩	140	地形	岩壁
京都市右京区空也滝	141	地形	滝
			清滝川の支流で、愛宕山（890.5m）の南面に源を発する堂承川の標高240mの所にある。清滝川の現輪廻の侵蝕の回春がおよんで形成されたものであろう。
京都市右京区愛宕山	142	地質	“アジノール”、コノドント化石
京都市右京区愛宕山	143	地形	残丘

所 在 地	図 番 面 号	区 分	内 容
			丹波山地の東部には、標高800～900mの高位水準の小起伏面がみられるのに対して、西部には、標高400～600mの低位水準の小起伏面がみられる。愛宕山は、京都盆地の北西部にあり、標高890.5mである。比叡山と同じように低位の準平原の上に残丘状に突きでており、地質は古生層からなり主としてチャートである。突起の成因は、かたい岩質にもとづく堅牢残丘の性質と、周辺を断層で囲まれていて、地塊運動による地塊の性質とがみられる。愛宕山の山頂の北の部分は、地蔵山(947.6m)や竜ヶ岳(924m)まで、比高100mの小起伏面がひろがり傾斜もややゆるやかである。西側には越畑や亀岡の断層崖があって亀岡盆地に向って階段断層をなしている。愛宕山の東側には、標高600mの小起伏面がひろがっている。
亀岡市 亀岡盆地東縁	144	地 形	開析断層崖 亀岡盆地の東縁は断層崖で限られている。断層崖は、南東の老の坂から北西の佐切、越方にかけて北西へ湾曲している。崖の上端は600m、崖の下端は100mで、比高500m程の崖である。この断層崖は、愛宕谷川、七谷川、三 川等によって壮年期の開析をうけ、これらの河川によって、山麓線に複合扇状地を発達させている。この断層崖の背後に、神吉、越畑、原等の海拔400mくらいの断層盆地があり、主盆地の亀岡盆地に対して、副盆地をなしている。亀岡断層崖は、このような階段断層崖の中の主要断層崖をなしている。亀岡盆地はこの断層運動によって生じた断層角盆地である。
亀岡市 七谷川	145	地 形	天井川 地蔵山(947.6m)の西斜面に源を発する七谷川は、上流では、ほぼ南北に流れるが、亀岡断層崖を東西に刻

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			み亀岡盆地に面した谷口に扇状地を堆積する。七谷川はその扇端から流れの方向を南北に変え、大堰川の旧流路と考えられる古川に入る。七谷川は、扇状地上で天井川となり、水流は伏流している。扇状地の扇央部は、松林櫟林に利用されていて、扇端は水田となり、河原尻集落を発達させている。
亀岡市 保津町	146	地 形	扇 状 地 丹波山地、地藏山(947.6m)に源を発する愛宕谷川が、亀岡断層崖を開析して、亀岡盆地に作った扇状地である。亀岡盆地の中にみられる扇状地の中では三俣川の扇状地について大きい規模をもっている。扇端部は、大堰川の側方侵蝕によって崖を形成している。扇状地面は高いので、大堰川の湛水氾濫をまぬがれるため、引無、北条、西垣内、安察使などの集落がある。
亀岡市 保津町山本	147	地 質	保 津 岩
亀岡市	148	地 形	亀岡の段丘 亀岡盆地の中の大堰川の南岸沿いに篠町から千代川町付近にかけて段丘面と段丘崖がみられる。段丘面の標高は100mである。かつて湛水して古亀岡湖を形成した当時の堆積面が段丘面として残ったもので、この段丘の崖は、大堰川の側方侵蝕によって形成され、国鉄山陰線沿いに見られる。なお、亀岡盆地の東南端の篠町付近には、さらに高い段丘面や台地、丘陵が見られる。台地、丘陵は、鮮新更新統よりなり、最近宅地化が進みつつある。
亀岡市 行者山	149	地 質	花崗岩マサ

所在地	図面番号	区分	内容
亀岡市 稗田野町 大谷鉾山	150	地質	ホルンフェルス、灰重石、黄鉄鉾
亀岡市 湯の花	151	自然現象	鉾泉 妙見街道が、篠山街道と分岐する所に湯の花がある。湯の花は鉾泉を湧出し、その湧出量は、1日当たり400tである。鉾泉の主成分は、ラドン33.69キュリーである。約30軒の旅館がみられる。湯の花付近は、亀岡盆地の副盆地としての本梅盆地の中にあり、亀岡盆地を形成する地塊運動にともなう構造線が潜在することが考えられる。
園部町 瑠璃溪	152	地形	溪谷 園部町の西境には、篠山盆地の南側に深山、剣尾山を中心として標高600～700mの小起伏面がみられる。園部川の上流は、この小起伏面の水を集め、東流して、一段低い標高400～500mの小起伏面へ下る。その際、谷は狭い急流を刻む。その長さ4kmで瑠璃溪と呼ばれ、京都府立自然公園となっている。地塊運動によって生じた地塊崖の高度差が溪流の成因であろう。上流側に人工の通天湖が築かれている。
丹波町 琴滝	153	地形	滝
園部町 若森	154	地形	本宮川河岸段丘 亀岡盆地の東西の外側には平行する副盆地が見られる。西側を本梅盆地といい、本梅川が貫流している。この本梅川に沿って河岸段丘がみられ、とくに若森付近に発達している。段丘は、本梅川の左岸に発達し、右岸は基盤の古生層の起伏に対して埋積地形を呈していて、左右兩岸の地形は非対称である。これは、亀岡盆地を形成する

所在地	図番号	区分	内容
			地盤の曲動（断層運動をともなう撓曲運動）にもとづくものであろう。段丘面は中位段丘に対比されるように思われる。
亀岡市 半国山	155	地形	残丘状突起 亀岡盆地は東西の外側に副盆地をともなっていて、西北・東南方向を軸とする地盤の曲動によって形成された。その西縁に半国山がそびえ、標高774mである。篠山盆地の南側にみられる深山、剣尾山、半国山など標高700～800mの尾根とともに周囲よりやや高い小起伏面（標高700～800m）をなす、古生層よりなり、古生層の一部から化石を産する半国山の山体は地塊運動によってもたらされたものと思われ、山頂は小起伏面の地形をとどめているが、周囲は急斜面で囲まれている。
園部町 瑠璃溪	156	地質	中生代火山岩類、ホルンフェルス
宇治市 宇治田原町 宇治川	157	地形	峡谷 京都府宇治市から京都盆地南部の桂川、木津川との三川合流点までの流路、長さ約30kmの川を宇治川と称するが、そのうち上流部約10kmは峡谷をなす。宇治川の峡谷は、古生層の山地を深く侵蝕して横断する先行性河川であるため、河床は岩盤、巨礫、ポットホールなどが露出していたりして急流をなしていたが、現在では天ヶ瀬ダムが建設されたため、そのような河床は見られなくなってしまった。 宇治川が山地を穿入蛇行しながら京都盆地に出る出口に河流の一部を取入れて池をめくらしした宇治の平等院がある。周囲の山水の景観を取り入れた庭園は人々の良く知るところで、付近の風景は平安時代の「源氏物語」や、あるいは「平家物語」などしばしば文学作品にも登場している。

所 在 地	図 番 面 号	区 分	内 容
城陽市、宇治市 宇治丘陵	158	地 形	古扇状地、バッドランド 宇治市の南側に宇治丘陵がひろがる。かつて古宇治川が琵琶湖からの水を京都盆地へ運びこんだ際に、谷口に形成された三角州状扇状地とされた。礫砂、粘土よりなり、大阪層群に対比されている。標高100m、60mあたりに宇治川の段丘面がみられる。宇治丘陵は、現在そのような単純なものではないと考えられていて、琵琶湖と京都盆地が水道でつながっていた頃に東へ、西へ、北へ流れた河流によってもたらされた地層と考えられている。宇治丘陵の輪部はその後の地盤運動と侵蝕の組み合わせによって二次的に形成されたと考えられている。宇治丘陵の東部の標高200m前後の付近は砂礫層の中に刻まれた谷によって、谷間の土地は垂直の谷壁で囲まれ、バッドランドの状態を呈している。とくに礫層は下位の砂泥層の侵蝕を保護するキャップベッド（帽子の役割をはたす地層）となっている。宇治丘陵には、山砂利採取場やゴルフ場がみられ、山肌ははげしく荒れている。
宇治市、久御山町 旧巨椋池	159	地 形	旧巨椋池 京都市伏見区・宇治市・久世郡にまたがる地域で、現在干拓地になっているが、ここにかつて巨椋池があった。この巨椋池はかつては宇治川の水が直接流入し、その旧流路は榎島字大橋から一ノ坪（三軒屋）を流れるもの、榎島東部から西目川付近を流れて巨椋池に注ぐものなど何度か流路を変えている。その後、秀吉が文禄3年（1594年）伏見に城を築いて以後、伏見城の防衛や城下町の繁栄を目的として、宇治川の流路変更の工事を行ない以後独立した池となった。この時の人工堤防（榎島堤、太閤堤などと呼ばれている）などが残っている。また堤防背後の後背湿地にはめずらしい湿原植物が分布し、数多くの野鳥が飛来してくるため、これらの観察に絶好の

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			フィールドとなっている。この場所は、本来重要な遊水池をなしており、それについてふさわしい土地利用の形態としては、水田とすることがよい。住居地域や工業地域とすることは不適当かつ危険である。
京都市伏見区 桃山丘陵	160	地 形 地 質	大阪層群の構造地形 大阪層群 京都市南東部にある60～100mの洪積台地である。地表は小さな谷によって開析されている。比較的平坦でベッドタウンとして宅地化が進んでいる。桃山御陵や桃山城などがあって、訪れる人も多い。 桃山丘陵を構成する地質は、基盤の古生層の起伏(大岩山など)を大阪層群およびそれより新しい鞍ヶ谷層、段丘層がおおっている。地層は北東、南西方向の褶曲軸により褶曲し、東急西緩の非対称な断面形を呈し、東西斜面に断層が走り、大阪層群は切られている。大阪層群の層序について深草付近の露頭において研究が進んでいる。峠付近では地下水の湧水を利用してミョウガが栽培されている。なお深草では粘土を採取し、建築材料に用いられている。なお、桃山丘陵の形成史は、京都盆地や山科盆地の発達史の中で重要な部分を占めている。
京都市伏見区 醍醐東部山地	161	地 形	醍醐断層崖 山科盆地の東側の山地には行者が森(441m)、高塚山(485m)、醍醐山(450m)、天下峰(351m)などの一連の尾根がみられる。この山地は古生層(チャート・頁岩・砂岩の互層)よりなる褶曲山地で醍醐山地(または山塊)と呼ばれている。その範囲は、北の逢坂の関、東の瀬田川、南の宇治川までの南北12km東西8kmにわたっている。この醍醐山地にはほぼ南北方向の断層が何本かみられるが、山科盆地に望む西斜面は

所在地	図番号	区分	内容
			大規模な断層に起因して形成された断層崖となっている。山麓には、大阪層群の地層よりなる丘陵や、山地の侵蝕によってもたらされた扇状地がとりまいている。この山麓には秀吉が花の宴をもよおしたことで、有名な醍醐寺、三宝院、醍醐天皇陵、朱雀天皇陵、一言寺観音など数多くの名勝、旧跡があり、山頂には上醍醐、準提観音などがあり、春の桜花の咲く頃は市民の絶好のハイキングコースとなっている。
京都市東山区音羽川	162	地形	音羽川扇状地 音羽川（山科川本流）は山科盆地の東方に位置する千頭岳（602m）に源を発し、山科盆地の東北隅から盆地内へ南西に流向を変えて流れ込む。そこに形成された扇状地が音羽川扇状地で、扇頂の標高100m前後、扇端の標高40m前後、面積約4km ² を有す。
宇治市 御蔵山	163	地形	大阪層群の構造地形 宇治市の北に標高87.6mの御蔵山がある。山体の大部分は住宅地化されている。御蔵山は大阪層群よりなり、大阪層群は南北方向の軸で褶曲しており、東側に断層をともっている。御蔵山は大阪層群が変位してできた構造地形である。この南北方向の運動軸は、京都盆地の中に発達しているもので、この運動軸による変位によって、山科盆地や桃山丘陵などの京都盆地東縁の微地形はもちろん、西縁の微地形も形成されたと思われる。
宇治田原町	164	地形 地質	丘陵地形 第三系中新統化石産地 宇治川の南方に第三紀中新世の地層が分布している地域がある。この中新層は第一瀬戸内海に堆積した浅海性の地層である。この地層とかさなって、古琵琶湖層群が

所 在 地	図 番 面 号	区 分	内 容
			分布している。古琵琶湖層群は、湖南から宇治丘陵まで帯状に分布するとともに奥山田を経て東の信楽町へ帯状に分布する。この地層のうち粗粒の礫質の部分に着目して、山砂利層（洪積世多雨期の堆積物）という考え方が検討されたことがあるが、現在はそれより古い鮮新更新統の一部と考えられている。この地層は、信楽山地（標高500～600m）の中にみられる標高300～400mの凹地帯の中にはいりこんで分布している。奥山田の中新層からは貝化石を産する。
宇治市 五雲峰	165	地 形	小起伏面地形
京都市東山区 行者ヶ森	166	地 形	小起伏面地形 京都盆地の東側に標高400～600mの小起伏面がひろがっている。小起伏面は、尾根の平らな緩傾斜の地形と浅い広い谷底に続く緩傾斜の斜面、あるいは両者の組み合わせの地形がみられる。山科東部の醍醐断層崖の背面の行者ヶ森（標高440～450m）は、尾根の平らな地形である。その周囲は急斜面で囲まれている。
宇治市笠取 笠取山	167	地 質	重晶石産地
宇治田原町 奥山田川上	168	地 質	石灰岩、フズリナ 領家変成岩の分布地域に近接した化石産地として重要。
京都市 東山区	169	地 形	京都東山
大山崎町 天王山	170	地 形	傾動地塊の山地 京都盆地西南部で、淀川が大阪盆地に出る狭隘部の右岸側に、標高270mの古生層よりなる天王山がある。東側に断層崖をもつ傾動地塊山地である。標高はそれ程

所在地	図面番号	区分	内容
			でもないが、対岸の男山(143m)との間が1~2kmほどで狭隘部をなし、平坦な山頂からは天気の良い日には一望のもとに京都盆地や大阪盆地が眺望できる。古来から交通の要所で、天下分け目の戦いと言われた豊臣秀吉と明智光秀の山崎の合戦(天正10年、1582年)は、この天王山の麓で争われた。
大山崎町 八幡町 三川合流地	171	地形	山崎の狭隘と三川の合流 京都盆地の西南部にあたる乙訓郡大山崎町の天王山(270m)と綴喜郡八幡町の男山(143m)は、京都盆地から流出する淀川をはさんで近々1~2kmの距離にせまって大阪平野へ抜け出る狭隘部を形成している。この狭隘部に達するすぐ上流で、桂川・宇治川・木津川の三川が合流して淀川となる。付近はしばしば洪水はらんを生じる地域となっている。しかし、この狭隘部は、京都・大阪の大都市を結ぶ最短の交通路にあたり、古来から淀川水運や道路交通の要所で、現在東海道本線、東海道新幹線、阪急・京阪の鉄道や、名神高速道路、国道1号線などの重要な交通路がこのせまい狭隘に集中して走っている。
京都市右京区 京都西山丘陵	172	地形 地質	“洪積台地”、段丘 大阪層群の構造地形 京都盆地の西縁をなす西山の山麓部を形成する丘陵で、主として大阪層群の地層よりなっている。この丘陵地は粘土、砂、砂礫層などからなり、その殆んどは竹林(孟宗竹)となっており、タケノコは日本有数の品質と生産高を誇っている。西山の山麓付近ではこの丘陵を構成する大阪層群は断層によって切られたり、あるいは古生層の上へのしあげたりしているのが見られる。大阪層群の中からかつて海であったことを証拠だてるカキや海棲け

所在地	図番号	区分	内容
			い藻の化石も発見されている。また丘陵の縁辺部には段丘も見られ、地学の学習に手頃のフィールドとなっている。
京都市右京区 西山	173	地形	西山断層崖 京都盆地の西縁をなす西山は、秩父古生層よりなり、隆起開析準平原である摂丹山地の一部で、ポンポン山(678m)・小塩山(670m)・釈迦岳(631m)・天王山(270m)と定高性の山地が北から南へ続いている。この西山の山地の東側は急傾斜をなして京都盆地に落込んでいるこれは断層によって形成された断層崖で、河川は盆地に達するまで急流をなして流下し溪谷美もみられる。断層崖の中腹や山麓には金蔵寺・三鈴寺・花ノ寺・光明寺・柳谷観音・妙喜庵などの名刹が連なり、その境内の庭園は周囲の景観によって一層引立っており、多くの参観者を集めている。
亀岡市 篠町	174	地形	“洪積台地”(鮮新—更新統よりなる台地)
長岡京市 柳谷	175	自然現象	独鈷水—湧水 西山の山地を貫いて亀岡の王子から鷯ノ谷川に沿って南南東に走る断層線がある。この断層線は大原野の灰谷、善峰寺付近を経て柳谷観音に至り、善峰断層と呼ばれる。柳谷付近にはその断層破さい帯にそって浸透してきた地下水の一部が湧水しているらしい。柳谷観音の独鈷水がそれで古来眼病の治療に効果があると伝えられ多くの信者を集めた。現在独鈷水と称されている水は、この破さい帯からの湧水か否かの真偽のほどは不明である。
京都市右京区 杉谷	176	地形	河川の争奪 京都盆地の西を限る西山断層崖の背面に西山山地がひ

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			ろがる。西山山地は丹波山地の低位水準の小起伏面で、標高400～600mである。ボンボン山の麓の杉谷には小起伏面上の谷系がみられ(標高450m)北流している。付近の谷はややひろけ水田に利用されている。他方、東の西山断層崖を刻む谷の谷頭侵蝕が及んだために、この谷は杉谷付近で河川争奪を受け、北への谷との間に谷中分水界を形成している。
京都市右京区 外畑	177	地 形	かたい岩石に保護された小起伏面 京都盆地の西方、西山山地は高度400～600mの小起伏面で丹波山地の西部の低位小起伏面にあたる。小起伏面は、さらに、高度500～600mの尾根の上にひろがる面と、高度400～500mの谷底にひろがる面に細分される。外畑は後者の谷底にひろがる小起伏面である。北側に輝緑岩よりなるかたい岩石が500mの稜線をつくり、その南側に、古生層の中、やややわらかい岩層(砂岩など)の部分に、東西方向に谷底小起伏面がひろがっている。外畑はその一部分を占めている。谷は浅くひろけ、起伏の比高はわずかに100mで、起伏の斜面の傾斜はゆるやかである。谷底には水田がひろけ集落がある。
京都市右京区 杉谷	178	地 質	石灰岩、腕足貝 丹波山地、京都周辺の山地を通じ、古生層より腕足貝を産した記録があるのは、この石灰岩だけである。
京都市右京区 石作金蔵寺	179	地 質	石灰岩、フズリナ
八幡町 男山	180	地 形	山 峯

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
南山城村 名張川	181	地 形	名張川、月ヶ瀬の峡谷 笠置山地には花崗岩を切って小起伏面がひろがる。月ヶ瀬付近では小起伏面の標高は250～300mである。この小起伏面の中に、木津川の支流名張川が深さ200mの峡谷を刻みこんでいて、現在、高山ダムが建設されている。花崗岩は河流の下刻に対してしばしばこのような峡谷地形を示す。月ヶ瀬付近ではこの谷斜面には梅林があり、歴史的に有名である。付近の小起伏面の所々に伊賀累層をおおう高位礫層が分布していて、この礫層と小起伏面との関係は侵蝕面の形成過程を考える手段となることが予想される。小起伏面上の谷には水田や、集落がみられる。
南山城村 童仙房	182	地 形	準平原遺物 童仙房は京都府南部、木津川と和束川にはさまれた信楽山地にある。花崗岩から成る高度500～600mの準平原状の高原で、開析が進んでいる。四周の山麓（笠置・東和束・湯船・大河原）から約8kmも離れた奥地にあり、長らく未開発のまま放置されていた。明治になって、士族授産のため開拓民が移住した。
南山城村 田山	183	地 形	小起伏面遺物 信楽山地や笠置山地の花崗岩や石英閃緑岩の地域には標高400～600mの著しい小起伏面が発達している。木津川の左岸、木津川の支流の名張川右岸の田山地域はその一つである。標高約300m。そこにはいわゆる高位礫層（鮮新更新統の最上部で高位段丘以前の礫層とされている）が部分的におおっている。小起伏面の尾根の標高300m、谷底の標高150m、比高150mくらいで、谷は侵蝕の回春の影響を受けてやや深い尾根は傾斜がゆるやかである。谷底には水田がひらけている。一

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
			一部にゴルフ場がみられる。
南山城村 北大河原	184	地 形	伊賀上野断層崖 近畿地方中部には比高数百メートルの断層崖が発達している。それは六甲変動によって生成したものである。伊賀上野の断層崖もその一つである。信楽山地の南側にみられ、崖の上端の高度400～600m、崖の下端の高度100m、崖の比高300～500mで、崖麓の第四紀層は断層運動により変位している。その地盤運動は島ヶ原地塊運動と名づけられ、新しい地盤運動である。木津川は、この伊賀上野断層崖に沿って流れ、断層谷ないし断層線谷の様相を帯び、伊賀ラインの峡谷をつくっている。断層崖の背面には信楽山地の小起伏面が広くひろがっている。
南山城村 北大河原	185	地 形	伊賀累層および高位礫層の丘陵地形 伊賀上野断層崖の崖麓に標高100～200mの開析された丘陵がひろがる。木津川はその丘陵の中に峡谷を刻んで西流する。丘陵は砂礫やシルト層からなり、これらは伊賀累層およびその上にのる高位礫層に相当する。この鮮新更新統および更新統は断層により変位していて、その変位の時代は第四紀で新しい。高位礫層に相当する礫層は、西北部ほど粒が大きい。木津川の河谷を東へ流れた河流により伊賀上野盆地の北西隅へ扇状地状に堆積した地層と思われる。
南山城村 高尾	186	地 形	侵蝕面遺物 平尾、高尾は京都府の南端にあり、奈良県と接する。花崗岩よりなる笠置山地にみられる小起伏面の著しく発達した台地の一つである。鮮新更新統の最上部あるいは高位段丘以前の礫層と思われる高位礫層が部分的にお

所在地	図番号	区分	内容
			おっている。小起伏面の尾根の標高300m、谷底の標高150m、比高150m位で、谷は侵蝕回春の影響を受けてやや深い、尾根は傾斜がゆるやかである。谷底には水田がひらけている。
城陽市 青谷川	187	地形	青谷の天井川
井手町 玉川	188	地形	玉水の天井川
山城町 不動川	189	地形	棚倉の天井川 花崗岩よりなる信楽山地から西流して木津川に直角に注ぐ青谷川や玉川・不動川は、木津川本流の河床上昇や大量の砂礫の流出にともなって、人工的に天井川となっている。国鉄奈良線や国道24号線はトンネルで堤防の下をくぐっている。この地域は昭和28年の南山城水害の時、大きな被害を出したが、これは、これら河川の天井川化と木津の堤防整備により堤外地域が排水不良となったことも一因とされている。
笠置町、南山城村 木津川	190	地形	木津川の峡谷 笠置山地を横谷となって西流する木津川の峡谷は風景もよく、伊賀ラインとも呼ばれている。この峡谷は、北側の信楽高原と南側の大和高原を分ける逆断層に沿ってできたものである。この谷にそって、京都から伊賀に通じる街道や関西本線が走っている。
和束町 北部山地	191	地形	鷲峰山断層崖 京都府の南部、和束谷の西側に位置する。秩父古生層の山地で、標高400～600mある。鷲峰山の南東側には、断層崖が顕著にみられる。鷲峰山頂の金胎寺は平城京の鬼門を守るために開かれた寺で、ハイキングコー

所 在 地	図 番 面 号	区 分	内 容
			ースとしても知られる。
笠置町 笠置山	192	地 形 自然現象	侵蝕面遺物 鉦 泉 京都府の南端に近く、標高290mである。北の信楽山地(500~600m)と南の笠置山地(300~400m)の間を西流する断層谷、木津川の南岸に位置する。断層運動で対岸の信楽山地より約250mほど落ちているため、急斜面をなす。大部分が花崗岩より成り、山頂付近はその巨石がごろごろして、奇観を呈する。山麓には鉦泉がみられ旅館も多い。府立笠置山自然公園に指定されている。
加茂町 当尾	193	地 形	大阪層群丘陵地形 京都府の南端にあり、奈良市と接する。和束の断層谷と木津川の横谷が交わるところに平地が開け、その南側には、大阪層群が堆積している洪積丘陵と、領家変成岩よりなる標高200~300mの低い山地がある。奈良県との境近くに岩船寺や浄瑠璃寺があり、観光客が絶えない。
田辺町 精華町 西部山地	194	地 形	大阪層群丘陵地形、田辺丘陵 京都府の南部に位置し、大阪府と奈良県に接する。木津川左岸の冲積平野と生駒山地の間に、標高100~150mの洪積丘陵が南北に長く横たわる。これは、甘南備丘陵の一部で、大阪層群がみられる。丘陵を刻んだ谷すじには水田がみられるが、他は雑木林となっているところが多い。近鉄京都線や国鉄片町線に近く、住宅地開発もさかんである。

所 在 地	図 面 番 号	区 分	内 容
井手町 井手	195	地 形	開析扇状地 木津川の右岸、笠置山地の西麓は宇治から奈良県の桜井付近にいたる延長40kmの大断層で切断され、井手町にはとくに明瞭な断層崖がみられる。その比高は150～200mに達する。崖を刻む玉川のV字谷の出口には、標高30～90mの典型的な扇状地があり、玉川によって侵蝕され、河岸段丘の階段となっている。その扇端付近に井手町の中心部がひろがる。玉川はその下流で典型的な天井川をなしている。この付近は国鉄奈良線と国道24号線が通じ、近郊農業地帯となっているが、近年、住宅地開発も進んでいる。
井手町 玉川	196	地 質	花崗岩中の脈岩群
山城町 鳴子川	197	地 質	真砂地帯
山城町 椿井	198	地 形	段丘地形
和束町 和束川	199	地 形 地 質	峡 谷 スカルン・ホルンフェルス
和束町 木屋	200	地 質	木屋型花崗岩
笠置町 切山	201	地 質	ホルンフェルス、紅柱石
笠置町 有市	202	地 形 地 質	峡 谷 スカルン
笠置町 打滝川	203	地 形	峡 谷

用語解説

あ アジノール板岩 —— 京都西北山地の愛宕山周辺その他に産する帯緑色ないし帯褐色で板状に割れる石を、日本の地質学関係者の間でアジノールと呼んできた。古くから磁石として重宝されている。コノドントと呼ばれるリン酸カルシウムからなる顕微鏡的な微細化石を含む。しかし、本来ドイツで定義されているアジノールとは、成因的にも全く違ったものである。

安山岩柱状節理 —— 安山岩（火山石）の岩体を柱状に分離させる明瞭な割れ目。

黄鉄鉱 —— 二硫化鉄からなる鉱物。

溺れ谷 —— 陸上の谷が地盤の沈降運動や海面下に沈んで作られた湾。

か 海岸段丘 —— 過去の海面に関連してできた海成の平たん面が海岸線に沿って階段状に分布する地形。

灰重石 —— タングステンの主な鉱石。

海蝕崖 —— 波の侵食によってできる海岸の崖。

海蝕洞 —— 海の波浪の侵食によって作られた洞穴。

開析 —— ある原地形に多数の谷が切れ込んで河川が侵食する作用。

河岸段丘 —— 河川に沿って片側ないし両側に分布する階段状の地形で、谷底平野が川の侵食の復活のために河床より高く台地状になった地形。

角閃岩（かくせんがん） —— 複雑な組成をもつ珪酸塩鉱物。

潟湖 —— 砂州によって外海から隔てられた海岸の湖。

カルスト地形 —— 石灰岩などの可溶性岩石が分布してできた地形。

岩礁 —— 水中にかくれている岩。

橄欖岩（かんらんがん） —— 鉄、マグネシウムなどの珪酸塩鉱物を主成分とする岩石。

輝緑凝灰岩 —— 多少変質した塩基性火山噴出物の火砕岩、熔岩の集合体に対する呼び名。

堇青石（きんせいせき） —— 珪酸塩鉱物の一つ。鉄、マグネシウム、アルミニウムなどを含む。

クロボク —— 腐植に富む黒色の土壌。

珪灰石 —— 岐阜県の春日鉱山などから産出し、陶磁器用に販売されている。

傾動地塊 —— 地塊運動の際、断層に沿う回転運動により一方に傾いた地塊。地形的には、一方に急な断層崖をもち、他方にゆるやかな長い斜面をもつ。

頁岩（けつがん）—— 堆積岩の一つ。粘土が凝結して成った岩。

ケルンコル —— ケルンバットが形成されるときに断層線に生ずる凹地（峠）

ケルンバット —— 必従谷（最初の地表面の傾斜方向へ流れる河川によって刻まれた谷）

で刻まれた山地、丘陵の斜面に地塊運動または断層線の差別侵食でつくられた小さい尾根。

洪積世 —— 第四紀を二分するときの前期。約200万年前から1.1万年前までの間にあたる。

紅柱石 —— アルミニウムの珪酸塩鉱物。

後背^て位湿地 —— 自然堤防の背後にできる沼沢性の湿地。

コニーデ型 —— 火山体の分類における型の一つ。円錐形で上に凹の斜面をもつ。

コノドント化石 —— 円錐状の歯という意味をもつ所属不明の微化石で錐歯類ともいう。

さ ざくろ石 —— マグネシウム、鉄、マンガン、カルシウムなどを含む珪酸塩鉱物の一群。

砂嘴（さし） —— 沿岸流によって運ばれてきた砂礫が岬や半島から海へ細長く突き出した砂礫の州。

砂州（さす） —— 砂嘴の一種で、湾または入江をほとんど閉塞するもの。

残丘 —— 準平原の全般的高さより一段高い丘陵。

三疊系 —— 三疊紀にできた地層その他のもの。三疊紀については、別表参照。

蛇紋岩 —— マグネシウムを含む含水珪酸塩鉱物から成る岩石。

褶曲（しゅうきょく） —— 堆積当時水平であった地層が横圧力のため波状に曲る現象。

重晶石 —— 硫酸バリウムからなる鉱物。

準平原 —— 侵食をうけて侵食基準面の近くまで削剝されたほぼ平坦な小起伏の侵食面。

準平原遺物 —— 過去の準平原面の一部が山頂ごとに独立した小平たん面となって残っているもの。

シルト —— 砂と粘土との中間の細かさを有する土。

スカルン鉱物 —— 石灰苦土珪酸塩鉱物の集合体。

鮮新世 —— 新生代新第三紀後半の時期。

鰓虫類 —— 触手動物または擬軟体動物の一綱とされる。

閃緑岩 —— 灰重長石、中性長石および有色鉱物を主成分とする完晶質粗粒の深成岩。

た 第三紀層 —— 第三紀に形成された岩層。

第四紀層 —— 地質時代の最後の紀。更新世（氷河時代）と完新世（後氷期）に二分。

断層崖 —— 侵食面の地下にあり、断層面で境された一方側の地塊が差別侵食によって掘り下げられて生じた崖。

断層盆地 —— 周囲より低い地域で、その境界が断層になっているところ。

チャート —— 珪質の化学的堆積物。ち密な潜晶質の岩石で、潜晶質石英と玉髄質石英よりなる。

中新統砂岩 —— 中新世（新生代新第三紀の前半の時期）に形成された砂岩。

中生代 —— 古生代と新生代との間で、約6,500万年前から約2.3億年前にいたる約1.65億年間。

地塁 —— 正断層で限られた幅に比して延長の長い両側に対して相対的に隆起した地塊。

沈降海岸地形 —— 地盤の沈降または海面の上昇によって、陸地が海面下に沈んで生じた海岸。

撓曲運動（とうきょくうんどう） —— 曲がる現象をいう。一般に撓曲は、地層が厚く水平に堆積した地域で基盤が上下に変位する場合に現われる。

トロイデ型 —— 火山体の分類命名の型の一つ。高さと基底の直径の比は大で、上に凸の斜面は急傾斜である。

な 二畳系 —— 二畳紀にできた地層その他のもの。二畳紀については、別表参照。

は 波蝕 —— 波が陸地を侵蝕する作用。

バッドランド —— 地表が無数のガリで刻まれ、細かいひだの入り組んだ水系の複雑な山地。

はんれい岩 —— 塩基性粗粒完晶質火成岩。

ビスマス —— 金属元素の一つ。

浜堤例 —— 砂浜において波によって打ち上げられた砂礫が、波の到達する上限付近に堆積して形成された小高い高まり。

フズリナ —— 紡錘虫。

不整合 —— ある地層が堆積後隆起し、陸上で風化、剝削作用をうけ、その侵食面に新期の地層が堆積したとき、両層の関係を不整合という。

変成岩 —— 変成作用を受けた岩石。（例 千枚岩、ホルンフェルス）

片麻岩 —— 広域変成作用でできた高変成度の粗粒しま状の総称。

ホルンフェルス —— 接触変成岩の代表。

ま 舞鶴地帯 —— 近畿地方北部から中国地方東部にかけてのびる地質構造体。古生代末から中生代はじめにかけて起った事柄を研究する上で重要なところである。

マサ —— 花こう岩が風化分解した砂。

脈石 —— 有用鉱床、鉱石中に含まれている役に立たない鉱物の総称。

ミロナイト —— 固結した岩石が著しい圧砕作用をうけ、すべての原鉱物が破砕されつくして、微粒集合体になったもの。

モラッセ —— 緑色砂岩を主とし、マールや砂岩を含む第三紀層に対するスイスの方言。

ら ラディノーカーニアン —— 三疊紀の中頃後半から後期はじめの時代の地層その他。

陸繋島 —— 砂州によって陸地と連絡した島。

流紋岩 —— 化学組成上、花こう岩に対応する珪長質火山岩の総称。

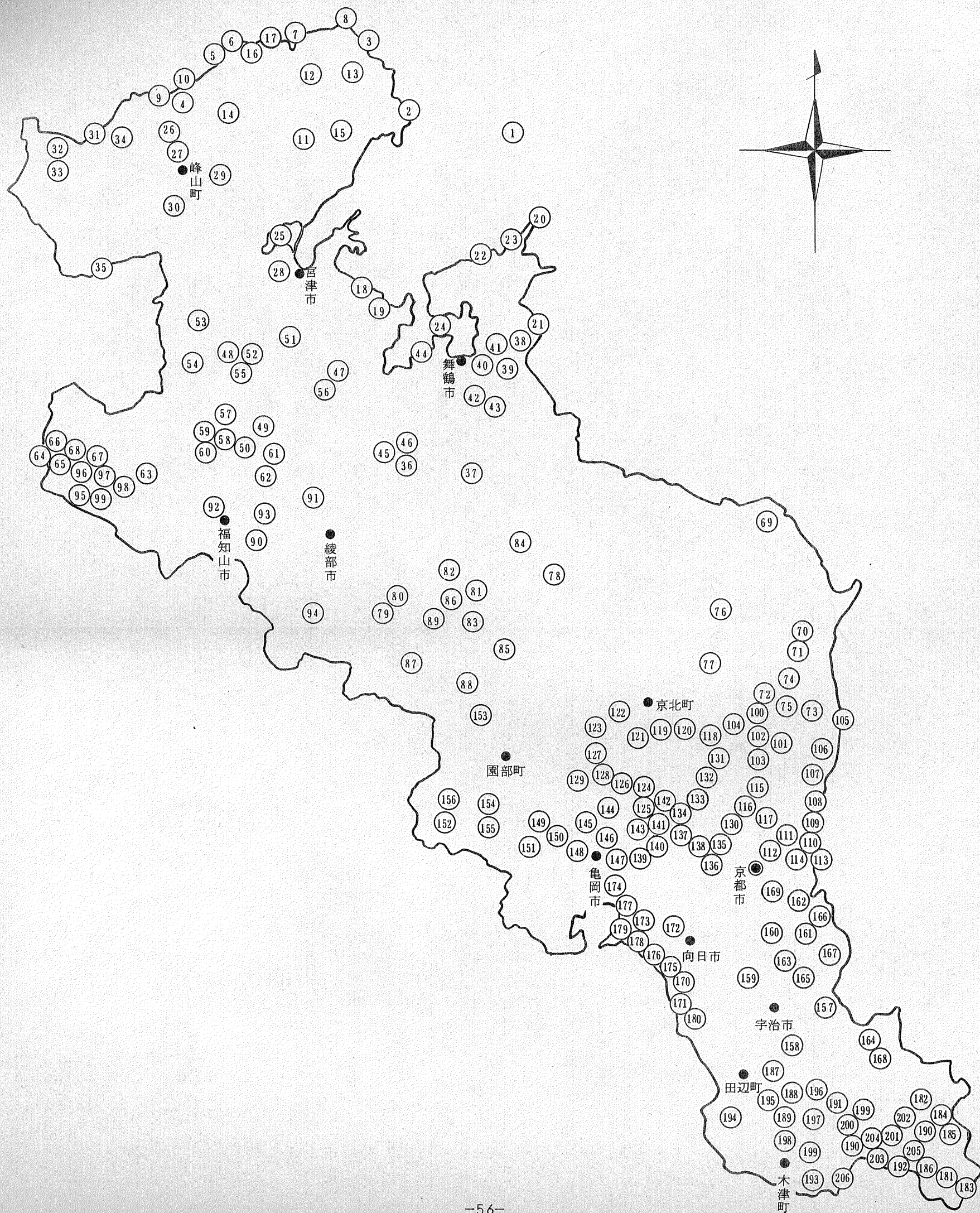
領家変成岩 —— 西南日本内側の最外側をなす領家帯に継続分布する変成岩類の総称。

礫岩 —— 礫が基質によって膠結された岩石。

地 質 時 代 表

時 代 区 分				各時代の大体の長さ	現在からの大体の古さ
新 生 代	第四紀	沖 積 世		単位100万 年 0.01	— 2 —
		洪 積 世		2	
	第三紀	新第三紀	鮮 新 世	69	— 70 —
			中 新 世		
		古第三紀	漸 新 世		
			始 新 世		
			暁 新 世		
中生代	白 亜 紀		65	— 135 —	
	ジ ュ ラ 紀		45	— 180 —	
	三 畳 紀		45	— 225 —	
古 生 代	二 畳 紀		45	— 270 —	
	石 炭 紀		80	— 350 —	
	デ ボ ン 紀		50	— 400 —	
	シ ル リ ア 紀		40	— 440 —	
	オ ル ド ビ ス 紀		60	— 500 —	
	カ ン ブ リ ア 紀		100	— 600 —	
先カンブリア代	原 生 代		2,400	— 4500 —	
	始 生 代				

地形・地質・自然現象位置図



京 都 府 の 植 物

昭 和 4 9 年 3 月

発 行 京 都 府 公 害 対 策 室

印 刷 有 限 公 司 京 都 プ リ ン ト 社
